

3 令和元年度活動実績

(1) リクルート等の実績

1) リクルート開始後の対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯(表1)

福島ユニットセンターは、平成23年1月31日から福島市、南相馬市及び双葉郡の10市町村を対象地域として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、相双地域を中心に福島県民の住環境は一変した。南相馬市の一部地域及び双葉郡は立入禁止区域となり住民は各地に避難し、リクルートを中断した。その後、対象地域は県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村が対象地域となりリクルートを行った。

平成26年3月31日をもって3年間のリクルートは終了した。父親のリクルートと子どもの登録は、母親が出産し1か月健診終了の同年12月まで実施した。

表1 福島ユニットセンターでの実施概要

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート目標人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～26年3月(3年2か月)	平成24年10月～26年3月(1年半)

2) 母親、父親及び子どもの参加者数

平成28年度中に、参加者登録状況についてデータクリーニング及び確認作業を行った結果、母親のリクルート数のはのべ13,131人、父親のリクルート数は8,694人、子どもの出生数は12,867人となった。

子どもの参加者年齢は、令和元年3月31日現在で5歳4か月～8歳8か月であり、5歳までのエコチル調査は終了した。

(2) 全体調査

1) 質問票調査実施状況

出産後6か月以降の質問票は、参加者の誕生月前後とその6か月後の年2回、半年ごとにコアセンターから参加者宅へ発送され、記入後ユニットセンターへ返送される。ユニットセンターでは回収後質問票の入力・データクリーニング作業を行う。

令和元年度は、4.5歳児から8歳児までの計8種類、総計21,283部の質問票を発送した。4.5歳児質問票は令和元年5月に全ての発送を終了し、新たに8歳児質問票が7月から発送を開始した。また学童期から質問票の発送は、誕生月と小学1年質問票を秋頃に一齐発送と変更になった。(表2)

表2 令和元年度 質問票調査発送数

質問票種類	4.5歳	5歳	5.5歳	6歳	7歳	8歳	小学1年	小学2年	計
福島本部事務所	27	886	1,801	1,983	1,567	934	1,541	887	9,625
郡山事務所	96	2,080	4,126	4,211	576	52	474	44	11,658
計	123	2,966	5,927	6,194	2,143	986	2,015	931	21,283

令和元年3月31日現在の質問票回収率(表3)は、6か月質問票(発送後6か月後)96.9%であったが、年齢が上がるにつれ徐々に低下している。全国15ユニットセンターの平均と比較すると回収率はこれまで数ポイント高い状況で推移してきたが、2.5歳からは低くなってきている。現在、質問票が発送後5週間以上返送されない場合、返送を促す等回収率の維持に努めているが、引き続き重要な課題である。

表3 質問票調査実施状況(令和2年3月31日現在)

質問票種類	質問票発送数	回収数	回収率(%)	
			福島	全国平均
6か月	12,832	12,440	96.9	94.1
1歳	12,737	11,986	94.1	91.3
1.5歳	12,692	11,555	91.0	89.2
2歳	12,655	11,099	87.7	87.2
2.5歳	12,632	10,742	85.0	85.6
3歳	12,607	10,430	82.7	84.2
3.5歳	12,570	9,986	79.4	81.7
4歳	12,541	9,765	77.9	80.5
4.5歳	12,499	9,456	75.7	78.7
5歳	12,303	8,912	72.4	76.2
5.5歳	9,390	6,909	73.6	77.2
6歳	6,269	4,918	73.7	76.9
7歳	1,740	1,308	75.2	77.0
8歳	309	225	72.8	75.6
小学1年	2,968	2,218	74.6	77.6

2) 疾患情報登録調査

疾患情報登録調査は、生後、子どもが特定の疾患に罹患した場合、保護者の質問票の記載に基づき、専門的な内容について診療した医療機関へ二次調査票の記入を依頼するものである。

対象疾患は、川崎病、染色体異常及び心疾患以外の先天性奇形、先天性心疾患、内分泌・代謝異常、てんかん・けいれん、小児がん、精神神経発達障害がある。

参加者が診断治療を受けた県内外医療機関に二次調査へのご協力をいただいている。

表4 令和元年度 疾患情報登録調査実施状況

地区	協力医療機関名	所在地	担当
県北	福島県立医科大学附属病院	福島市	本部事務所
県中	星総合病院	郡山市	郡山事務所
	寿泉堂総合病院	郡山市	
	太田西ノ内病院	郡山市	
	公立岩瀬病院	須賀川市	
	わんぱくさいとうこども医院	郡山市	
県南	白河厚生総合病院	白河市	
会津	竹田総合病院	会津若松市	
いわき	いわき市医療センター	いわき市	
県外	新潟県立中央病院	新潟県	本部事務所

3) フォローアップ状況について

調査参加者が、福島ユニットセンターから他ユニットセンター対象地域に転居する場合又は他ユニットセンターから福島県内へ転入した場合は、管轄を変更して調査を継続して実施している。また、対象地域外へ転出された場合は、質問票の返送先を福島ユニットセンターとして継続している。協力取りやめなどの意思が明らかでない状態で住所のあて先が不明になり、電話連絡が取れなくなった調査参加者へは、参加時の同意内容に基づき住民票照会を実施し状況を把握し連絡を試みている。

母親の妊娠中の流産、中絶、子宮内胎児死亡、出産後の子どもの死亡等により調査継続が不可能になった場合を「調査打ち切り」、子どもは追跡可能な状況であるが代諾者(主に母親)の都合により調査継続ができなくなった場合を「調査取りやめ」としている。

令和元年度の子どもの調査取りやめ件数は110件で理由は多忙、質問の回答が負担、子ども・母親の健康状態、家事都合などであった。

4) フォローアップ率維持のための対応

エコチル調査終了時のフォローアップ率は80%以上を維持することを目標にしている。参加者のエコチル調査に対する思いを大切に、また、調査期間中継続して「エコチル調査に参加してよかった」、「13年間エコチル調査を続けたい」といったモチベーションを維持していただけるよう、発達段階に応じたイベント開催やニューズレターの発行などを実施している。
(9) 広報活動参照)

(3) 学童期検査

1) 目的

小学2年生を対象に、環境中の化学物質が子どもの成長や健康に与える影響について、参加児に直接会って情報を得る。

地区別、年度別 学童期検査対象者数(2020年3月31日時点)

	令和元年度 (2011年度生)	令和2年度 (2012年度生)	令和3年度 (2013年度生)	令和4年度 (2014年度生)	地域計
県北	829	1,466	1,893	926	5,114
相双	22	57	175	64	318
県中	24	171	1,625	951	2,771
県南	1	51	489	223	764
会津・南会津	5	115	781	341	1,242
いわき	12	91	962	520	1,585
県外	39	71	191	107	408
年度計	932	2,022	6,116	3,132	12,202

2)検査項目

- (1)身体計測：身長・体重・体組成(体脂肪率・筋肉量)
- (2)精神神経発達検査
- (3)尿検査

3)令和元年度スケジュール

(1)参加者への案内発送

6月29日(本部管轄) 7月1日(郡山管轄)

(2)予約受付期間

6月末～12月中旬(6か月間) WEB・封書・電話申込

(3)検査期間

① 集団方式(予め検査日を設定し、参加者が予約登録して実施する)

2019年7月23日～11月24日のうち31日間

1日あたり36人枠の予約枠を設定した。

夏休みは平日・土日も含めて、学校期間中は土日祝日に、各地域75%の参加枠を設定した。そのため本部事務所は県北地域を中心に26日間、郡山事務所は各地域に5日間を設けた。

② 個別方式

2019年8月9日～2020年1月8日(5か月間)のうち14日間

集団方式で日程の合わなかった参加者と直接日程を調整し実施した。

4)令和元年度検査実施会場

内訳)自治体関係施設(保健センターなど) 7か所

民間施設(自治体関連組織が運営する道の駅) 1か所

大学、郡山事務所 2か所

計10か所

5) 令和元年度実施体制

1日あたりスタッフは、11～12名を配置。うち、派遣職員は3名で、検査補助業務を担当した。

6) 令和元年度実施状況

(1) 対象者数

県北、相双地域	850名(本部管轄)
県中、県南、会津、いわき地域	43名(郡山管轄)
県外在住	37名
総計	930名

(2) 実施日数 44日間

(夏季休暇中21日間、冬期休暇中1日間、学期中22日間)

	集団方式	個別対応	合計
本部事務所	25	5	30
郡山事務所	5	9	14
合計	30	14	44

※本部事務所集団方式実施予定箇所が台風のため中止。予定より1か所減数となった。

(3) 実施件数 531件

	集団方式	個別対応	合計
本部事務所	497	5	502
郡山事務所	18	11	29
合計	515	16	531

(4) 検査実施率 57.1%

(5) 事業評価アンケートの実施

会場に来場した保護者へ、学童期検査運営に関する事業評価アンケート調査を実施した。523件提出いただき、回収率は99.6%であった。

7) 令和元年度学童期検査関連会議

(1) 学童期検査担当者会議

2019年4月～2020年3月まで 計12回

(2) 学童期検査リスク管理研修(コアセンター主催)

2019年5月29日 東京

(3) 他UCとの情報交換会

2019年7月15～16日 山梨ユニットセンター 2名

2020年2月13日 大阪ユニットセンター 9名

(4) UC内における実施に関する説明会

2019年6月17日 職員研修として

(4) 詳細調査

令和元年度の詳細調査は6歳医学的検査のみ実施した。

1) 医学的検査

令和元年5月から6歳医学的検査を実施

身体計測のほか、医師による診察や血液検査を実施

① 協力医療機関

詳細調査の6歳医学的検査を実施するため、4歳医学的検査協力医療機関に加え個人医院などの協力を得た(表5)。

表5 詳細調査6歳医学的検査協力医療機関

NO.	地区	協力医療機関名
1	県北	公立藤田総合病院
2		一般財団法人大原記念財団 大原総合病院
3		公立大学法人福島県立医科大学附属病院
4		医療法人おひさま子供クリニック
5		医療法人いそめこどもクリニック
6		医療法人いちかわクリニック
7		医療法人竹内こどもクリニック
8		医療法人武田小児科
9		土川内科小児科
10	相双	公立相馬総合病院
11		医療法人彗生会 菜のはなこどもクリニック
12	県中	公益財団法人星総合病院
13		一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
14		独立行政法人国立病院機構 福島病院
15		医療法人はぐくみ いいもり子ども医院
16		医療法人健生会 おおがクリニック
17		医療法人おおのこどもクリニック
18		医療法人かわなこどもクリニック
19		医療法人仁寿会 菊池医院
20		医療法人久米こどもクリニック
21		医療法人喜信会 じんキッズクリニック
22		医療法人英徳会 さかい小児科クリニック
23		医療法人宣誠会 すみこしこどもクリニック
24		県南
25	医療法人健恵会 ねもとキッズクリニック	
26	医療法人わたなべ子どもクリニック	
27	会津	一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院
28		福島県厚生農業協同組合連合会 坂下厚生総合病院
29		医療法人いとう子どもクリニック
30	南会津	福島県立南会津病院
31	いわき	いわき市医療センター
32		医療法人森のこどもクリニック

② 6歳医学的検査実施件数

令和元年5月～令和2年2月27日 296件

新型コロナウイルス感染症対策のため令和2年2月28日より検査を中止している。

2) 詳細調査関連会議等

① 検査担当者の情報交換会

令和2年1月 6歳医学的検査担当者間情報交換会(福島市)

参加者(担当医師・看護師)計9名

令和2年2月 6歳医学的検査担当者間情報交換会(郡山市)

参加者(担当医師・看護師)計28名

② 精神神経発達検査定例会

令和元年6月～令和2年3月 計7回

出席者：医学的相談責任者、発達検査リーダー、福島県立医科大学心理士、

福島県立医科大学小児科医、リサーチコーディネーター

③ 詳細調査担当リサーチコーディネーター会議

平成31年4月～令和2年3月 計11回

(5) 地域運営協議会

1) 開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政機関及び医療機関等の委員に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行うとともに、情報交流の推進を図った。

2) 開催状況

令和元年度は、下表のとおり開催予定であったが、台風19号及び10月25日の大雨により県内各地で甚大な被害を受けたことにより、多方面で様々な影響が生じていることを鑑み、例年秋に開催される各地域の地域運営協議会はやむなく中止とし、福島県地域運営協議会のみで開催となった。

表6 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	令和元年7月22日(月)	福島市
2	県北・相双地域運営協議会	令和元年10月18日(金) 中止	福島市
3	会津地域運営協議会	令和元年11月1日(金) 中止	会津若松市
4	いわき地域運営協議会	令和元年11月22日(金) 中止	いわき市
5	県中・県南地域運営協議会	令和元年11月25日(月) 中止	郡山市

3)内容

- 環境省・コアセンターから全国のエコチル調査の現状と調査にかかる情報やご意見をいただいた。
- 本県のエコチル調査の実施状況、参加者への調査結果の返却等、参加率維持のための取組、学術活動、環境省からの第三次中間評価等について報告した。
- 参加者に13年間調査を継続してもらうための方策や調査に期待すること・要望等について、委員から様々なご意見をいただくとともに、今後のご支援・ご協力を依頼した。



福島県地域運営協議会(令和元年7月22日：福島市)

(6)市町村訪問

令和元年9月から10月にかけて、毎年実施している市町村訪問を行った。

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により避難した南相馬市及び双葉郡の8町村を訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(7)協力医療機関訪問

平成29年度より開始した詳細調査について、小児科のある県内32の医療機関の協力を得て、6歳医学的検査を実施した。なお、事前に環境大臣から協力医療機関への「依頼状」が交付されたことを受け、橋本センター長が、当該医療機関を訪問し、協力依頼を行った。また、郡山市と福島市で協力医療機関との情報交換会を開催し、情報共有を図った。

(8)教育関連機関訪問

令和元年5月から6月にかけて、福島県教育事務所の各所長及び福島県小学校長会の役員の方々を訪問し、エコチル調査について説明の上、調査への理解と協力を求めるとともに、福島県地域運営協議会委員への就任を依頼し、承諾をいただいた。

(9) 広報活動

1) 子育て講演会&ファミリーコンサートの実施

開催日：令和元年8月25日(日)14:00~16:00

開催地：郡山市

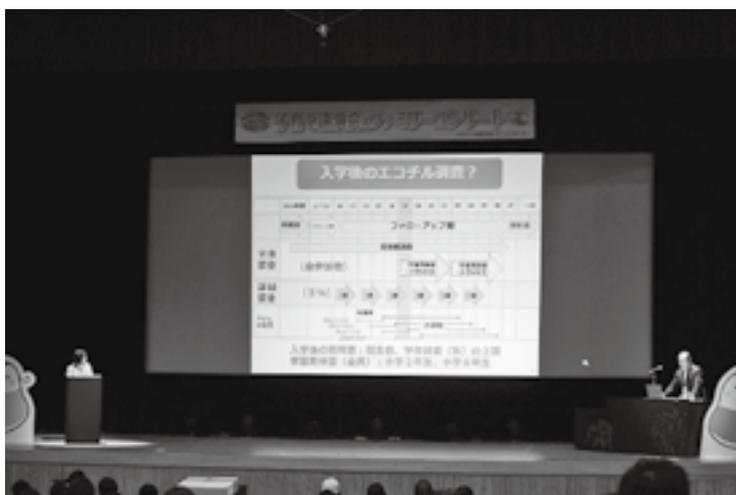
会場：郡山女子大学建学記念講堂 大ホール

参加者数：252名

福島ユニットセンターに属する参加者へのフォローアップ率維持及び県民に対するエコチル調査の認知度向上及び協力体制の構築を目的としたイベントを開催した。調査参加者をはじめ、全県域の関係機関、公共施設等に対しチラシを配布するなどの広報を実施した。また、フリーペーパー及び地元新聞社にイベント開催を掲載し周知した。

主な内容としては、エコチル参加者の関心が高い子育てに関するテーマの講演会と親子で楽しめるファミリーコンサートの2部構成とした。第1部においては、当ユニットセンター長による調査の進捗状況・集計結果の報告や一般財団法人大原記念財団 大原綜合病院 副院長 鈴木重雄先生による講演を行い、第2部では、中川ひろたかさんと鈴木翼さんによるジョイントコンサートを行った。

また、会場内には、調査の最新データなどのパネルを掲示するとともに、子育てや医療に関する相談コーナーを設置した。



福島ユニットセンター長 橋本浩一
報告：「エコチル調査でわかってきたこと」



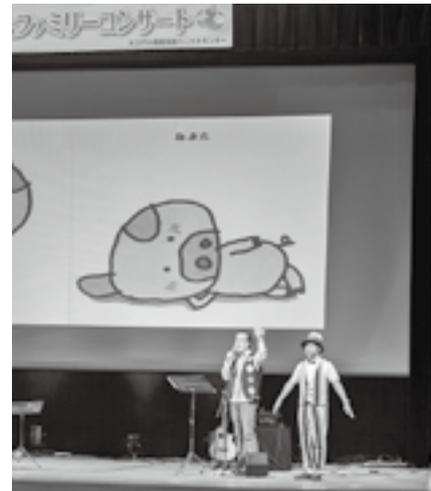
子育て講演会
「アレルギーって何？正しい理解と正しい付き合い方」



一般財団法人大原記念財団
大原総合病院
副院長 鈴木 重雄 先生



ファミリーコンサート
「中川ひろたか&鈴木翼
ジョイントコンサート」
調査参加者の対象児(5~8歳児)と
保護者がいっしょに楽しめる歌、体
操、あそびうたなどの参加型コン
サートで会場内は笑顔であふれた





エコチル調査の概要と調査でわかってきたことの
パネル掲示



環境省のケミカルパズル・すごろくの展示



子育てや医療に関する相談コーナー



事前申込制による託児室設置



モニター設置とキッズコーナー
 玄関ホールにモニターを設置し、キッズコーナーを併設。
 開演前から多くのお子さんが利用していた

協力：郡山女子大学短期大学部幼児教育学科
 学生ボランティアと幼児教育学科の教員

■フリーペーパー掲載

元気ッズ！ふくしま 広告掲載

リビング郡山 広告掲載

ファミリーコンサート
 福島医大のエコチル調査福島ユニットセンターは25日午後2時から、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開く。講演会では、大原総合病院の鈴木重雄副院長が「アレルギーって何？正しい理解と正しい付き合い方」と題して話す。コンサートでは、シンガーソングライター中川ひろたかさんと、あそび歌作家の鈴木翼さんがステージを繰り広げる。入場無料。申し込み締め切りは19日。申し込み、問い合わせはエコチル調査福島ユニットセンター郡山事務所（電話024・983・4750）へ。

日刊マメタイムス 2019年7月17日掲載

25日に子育て講演と演奏会
 福島医大とエコチル調査福島ユニットセンターは25日午後2時から、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開く。講演会では、大原総合病院の鈴木重雄副院長が「アレルギーって何？正しい理解と正しい付き合い方」と題して話す。コンサートでは、シンガーソングライター中川ひろたかさんと、あそび歌作家の鈴木翼さんがステージを繰り広げる。入場無料。申し込み締め切りは19日。申し込み、問い合わせはエコチル調査福島ユニットセンター郡山事務所（電話024・983・4750）へ。



来場を呼び掛ける渡辺幸子
 主事と大槻紀子主事

福島民友2019年8月9日掲載

25日に子育て講演会とファミリーコンサート
 エコチル調査福島郡山女子大講堂
 福島医大エコチル調査福島ユニットセンターは25日午後2時から、郡山市の郡山女子大建学記念講堂で「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開く。講演会では、大原総合病院の鈴木重雄副院長が「アレルギーって何？正しい理解と正しい付き合い方」と題して話す。コンサートでは、シンガーソングライター中川ひろたかさんと、あそび歌作家の鈴木翼さんがステージを繰り広げる。入場無料。申し込み締め切りは19日。申し込み、問い合わせはエコチル調査福島ユニットセンター郡山事務所（電話024・983・4750）へ。



コンサートをP
 目する関係者

福島民報2019年8月16日掲載

子どもの健康と環境学ぶ
 郡山で講演会 睡眠時間調査を報告

福島医大エコチル調査福島ユニットセンターは25日、郡山市の郡山女子大で「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開き、参加者が子どもの健康と生活環境の関係性について学んだ。

エコチル調査は、全国で約10万組の親子に協力してもらい、子どもが妊娠中から13歳になるまで、環境中の化学物質などが子どもの成長に与える影響を追跡調査する環境省のプロジェクト。県内からは約1万組が参加している。

講演会には調査に参加している人など約250人が出席した。同医大の小児科医で、同調査福島ユニットセンターの橋本浩一センター長は「子どもの睡眠の調査では、就寝時間が遅くなったり、十分な睡眠時間がとれない家庭もある。子どもの睡眠は家族の生活リズムに関係してくる」と調査報告した。写真。



福島民友 2019年8月29日掲載

2)エコチル★ふくしま 環境セミナーの実施

開催日時：令和元年10月20日(日)

14：00～15：30

場 所：郡山市ミュージカルがくと館 2階中ホール

対 象 者：エコチル調査参加者及び一般の方

参加者数：24名

講 師：国立研究開発法人 国立環境研究所
地球環境研究センター 横畠 徳太 先生

目 的：調査参加者の環境問題に対する関心などにお応えすることを目的に開催した。

内 容：テーマ「地球温暖化が進むと何が困るの？」

地球温暖化ってなんだろう？これから地球はどうなっていくの？近年、私たちの身近な問題として取り上げられている地球温暖化の影響についてスライドを用いたわかりやすい講演とワークショップが行われた。

来場者から「温暖化についての仕組みが理解できた」「日常生活を見直す良い機会になった」「温暖化について、もっと詳しく調べてみようと思った」などの感想が寄せられた。



3) エコチルふれあい会の実施

ふれあい会は、エコチル調査参加者親子・参加者同士そして参加者と福島ユニットセンターとがコミュニケーションをとり、エコチル調査を長期間にわたり協力していただくモチベーションを高めることを目的として、これまで子どもの成長発達段階で重要といわれている時期に合わせて県内全域で平成24年度から実施している。

令和元年度は、参加者を対象とした親子ふれあい会を5回実施した。

☆親子ふれあい会(全県全年齢対象) 参加者合計94組 子ども168名・親143名

日時	開催地	会場	内容	参加者親	参加者子ども
2019年 6月16日(日)	いわき	いわき市産業創造館 企画展示ホールA+B (いわき市ラトブ内)	親子でキッズダンス	18名	24名
7月7日(日)	会津	国立磐梯青少年交流の家 第6研修室+多目的室	森のクラフトと屋外遊び	31名	31名
11月10日(日)	県南	白河市まほろん (福島県文化財センター 白河館) 実習室・研修室	ミニ土器・ミニはにわ をつくろう!	39名	45名
12月1日(日)	県中	郡山市ミューカル がくと館	風船ロケットをつくろう!	36名	44名
12月24日(火)	県北	NCV Fukushimaアリーナ メインアリーナ・研修室	親子でキッズダンス	19名	24名

4) ニュースレターの発行

2019年夏号(令和元年6月)及び2019年秋号(令和元年9月)、2019年冬号(令和元年12月)、2019年春号(令和2年3月)の4回発行した。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、「おしえて先生」などの子育てに役立つ情報を提供した。(参加者あて約12,000部、市町村等関係機関あて約850部、計12,850部発送)(別添「資料3」参照)

5) 協力医療機関及び施設への活動報告

4歳精神神経発達検査及び6歳医学的検査の34協力医療機関・施設に対して「エコチル★詳細調査★だより」を毎月発行した。詳細調査の進捗状況、取り止め数、未実施(欠測)数、6歳医学的検査月別検査予定数、参加者への結果報告書の送付数などについて報告した。(第46号～第57号まで発行)。

エコチル★詳細調査★だより 第56号
2020.2

参加者総数(2020年1月末現在)

○**調査参加者数**
福島ユニットセンターの詳細調査は637名の協力を得て開始しましたが、他ユニットセンターへ転出した参加者や諸事情で詳細調査への協力を取り止めた参加者がいます。

開始時参加者総数	詳細調査協力取り止め	他ユニットセンターから転入	他ユニットセンターへ転出	現参加者数
637	32	2	1	606

※ ユニットセンターのある県外へ転居した場合は、転居先のユニットセンターで調査を継続していただけます。

○**地区別参加者数**

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
参加者数	204	193	34	58	6	11	91	9	606

※ 参加者の転居に伴い、地区の参加者数が増減することもあります。

○**地区別取り止め数**

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
取止数	11	5	4	5	1	2	4	32

※ 昨年の4月から現在までに詳細調査協力を取り止めた参加者は6名です。

○**6歳詳細調査 医学的検査(2020年1月末現在)**

○**地区別実施数**：県外の参加者は県内の医療機関で医学的検査を実施します。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
2019年5月～2020年1月末	94	86	18	28	3	9	31	269

※ 269名中12名は、諸事情で採血を実施しませんでした。

○**地区別欠測数**

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
2019年5月～2020年1月末	8	7	-	3	-	-	5	2	25

<欠測理由>

- ・県外在住の為、今回は来福できない 2名
- ・平日は移動手段がない 1名
- ・家庭の事情 1名
- ・参加者と連絡が取れないうちに検査期間が過ぎた 10名
- ・母親の体調不良 1名
- ・保護者の仕事の都合 4名
- ・余裕がない 6名

○参加者への医学的検査結果返却数

返却日	返却数
2019年8月～2020年1月末	180

○月別検査予定数
参加者が6歳になる誕生日の人数を地区別に示しました。医学的検査の検査可能期間は5歳11か月から6歳3か月0日となっています。

参加者の誕生日	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
1月	9	6	1	4	-	-	4	1	25
2月	8	12	3	2	1	-	4	2	32
3月	14	10	3	4	-	-	9	1	41

※ 参加者の詳細調査への協力取り止めや転居に伴い地区の人数が変動します。

その他

★ **6歳医学的検査担当者(医師・看護師)情報交換会を開催しました。**
お忙しいところ、参加していただきありがとうございます。
1月26日 福島市 ウエディングエルティ 参加施設 5 参加者 9名
2月9日 郡山市 ホテルハマツ 参加施設 19 参加者 28名



1月26日



①

皆様から頂いた貴重なご意見・ご助言を活かし、よりスムーズに検査ができるよう努力して参ります。



②



③

※①②③の写真は2月9日です。

○皆様で有意義な情報交換会となりましたことに、心より感謝申し上げます。

【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査 福島ユニットセンター
 (福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1番地
 TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1441
 (郡山事務所) 〒963-8024 郡山市南3丁目6-4 レジデンス総日第2ビル2階
 TEL 024-963-4780 FAX 024-963-4751
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>

エコチル★詳細調査★だより 第56号(令和2年2月発行)

6) メールマガジンの配信

大学内の教職員及び学生向けに、エコチル調査のデータ集計結果や論文などを紹介する「情報発信：エコチル調査」を計11回配信

送信日	トピック	論文紹介
平成31年4月24日	小学校入学後のエコチル調査は？	
令和元年5月30日	令和からの詳細調査	妊娠中の血中重金属濃度と出生時体格との関連性について
6月27日	8年ぶりの顔合わせ	生殖補助医療による妊娠および分娩の合併症と転帰
7月25日	「子育て講演会&ファミリーコンサート」の開催	日本人における魚介類／n-3系多価不飽和脂肪酸摂取とアレルギー性疾患との関連
8月29日	「子育て講演会&ファミリーコンサート」を開催しました	妊娠中に受けた暴言と新生児聴覚スクリーニング要精査の増加
9月26日	10月20日に「エコチル★ふくしま環境セミナー」を開催します！	胎児期の母のカフェイン摂取量とSGA (Small-for-gestational-age)、早産および出生体重との関連
10月24日	3歳までのデータを用いた研究課題を募集しています	飲酒が妊娠に及ぼす影響について：胎盤の異常(前置胎盤、常位胎盤早期剥離、癒着胎盤)
11月28日	毎月「エコチル勉強会」を開催しています	産後うつと産後1年時の対児愛着との関連
令和2年1月30日	エコチル調査は10年目に入ります	妊娠中の自宅内装工事と児の先天性形態異常との関係について
2月27日		向炎症食の妊娠週数、出生体重に与える影響
3月26日	新型コロナウイルス感染症のエコチル調査への影響	生後早期のペットの飼育と子どもの発達

7)市町村主催のイベントへの参加

エコチル調査の周知及び調査に対する理解を促すことを目的として、市町村が主催するイベントのブースに出展し、活動内容や調査でわかったことなどについて広報活動を行った。

(表7)

表7 市町村主催イベントへの参加状況

主催市町村名	イベント名	参加日
郡山市	こどもまつり	令和元年5月5日(日)
福島市	お口の健康フェア2019	令和元年6月9日(日)
福島市	福島市健康フェスタ2019	令和元年9月8日(日)
郡山市	ファミリーフェスタ2019	令和元年9月29日(日)
会津若松市	会津健康まつり	令和元年9月29日(日)



こどもまつり



お口の健康フェア2019



福島市健康フェスタ2019



ファミリーフェスタ2019



会津健康まつり

8)グッズの作成等

エコチル調査に継続参加していただくことを主たる目的として、調査参加者にオリジナルカレンダーを配布するとともに小学校の新入児童にエコチル名入り鉛筆を入学お祝いとして贈呈した。また、ふれあい会や市町村イベント等においては、エコチル調査でわかってきたこと等を掲示し、リーフレットとともにティッシュやボールペン等を配布し、広報活動に努めた。

(10)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から保護者への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目的

参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

なお、令和元年7月から、小学2年生を対象とする学童期検査が開始され、その謝礼においても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

保護者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回の場合や銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した、12,168名(令和2年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。

3)その他

これまでnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について、発行時における取扱説明書の配付、ニューズレターでの定期的なお知らせ、エコチルカレンダーの1面を使っての案内等により参加者全員に対し周知を図ってきた。

令和元年度には、平成30年度に引き続きnanacoカードの利用方法やポイントの有効期限について周知徹底を図るため、次の方法により注意喚起を行った。

- ①ニューズレター発送用封筒に、nanacoポイント交換案内を掲載【図1】
- ②ニューズレター冬号にnanacoポイント有効期限の案内の記事を掲載
- ③令和2年3月末までにnanacoポイントが失効する可能性のある参加者へ案内はがきを送付【図2】

【図1】

料金後納郵便
EcoChil
電子マネー
ゆうメール

～エコチル調査参加者の皆様へ～
nanacoカードに付与されたポイントには有効期限があります！
お早めに電子マネーに交換してください。

公立大学法人 福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

担当 _____

福島本部事務所
〒960-1295 福島市光が丘1
TEL(024)547-1449 FAX(024)547-1448

郡山事務所
〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日 第2ビル2階
TEL(024)983-4780 FAX(024)983-4751

子どもの健康と環境に関する全国調査
<http://www.ecochil-fukushima.jp/>
エコチルふくしま 検索

エコチル調査コールセンター 0120-327-735 9:00~17:00(土日祝日を除く)
エコチル調査ホームページ <http://www.env.go.jp/chemi/coeh/>

【図2】

エコチル調査 nanaco カードを
お持ちの皆さまへ

カードのポイント失効についてのお知らせ

注意！ エコチル調査の
nanaco カードのポイントが
失効する可能性があります！

2020年3月31日までに
ポイントを電子マネーに交換して下さい

〈交換方法〉
nanaco カード加盟店でnanaco カードを手渡し、
「センター預かり分のポイントを電子マネーに
換えてください」とお伝えください。
※ご不明な点は、以下お問い合わせ先にご連絡ください。

【問い合わせ先】
エコチル調査福島ユニットセンター（福島県立医科大学内）
住所：〒960-1295 福島市光が丘 1
電話：024-547-1449 平日（土日祝日を除く）9:00~17:00
（QRコードを読み込むとメールフォームが開きます）

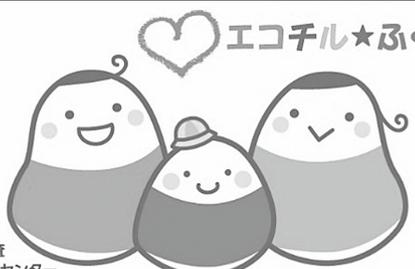


電子マネーカード

エコチル★ふくしま

エコチル調査
福島ユニットセンター

nanaco




(11)研修等

1)RC代行研修

令和元年度は、ユニットセンター職員等12人に対して入職時に5回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンターの職員等に対する研修は、計71回、受講者は計669名となった。

2)他ユニットセンターとの情報交換会

山梨、富山、産業医科大学の各ユニットセンターを訪問し、大阪ユニットセンタースタッフが来訪、情報交換を行った。(表8)

表8 他ユニットセンターとの情報交換会

訪問	訪問日	訪問職員	情報交換の内容
山梨	令和元年 7月15日(月)	教員1名 RC職員1名	・ファミリーイベントへの参加 ・学童期検査にかかわる情報交換会
富山	令和元年 12月1日(日)	RC職員2名 事務職員2名	・とやまウインターフェスタへの参加 ・広報活動、学童期検査にかかわる情報交換会
産業医科大学	令和2年 2月16日(日)	教員1名 RC職員2名	・詳細調査10歳医学的検査・発達検査の実施方法についての情報交換
来訪	開催日	対応職員	情報交換の内容
大阪	令和2年 2月13日(木)	教員2名 RC職員8名 事務職員2名	・学術活動に関する情報交換 ・学童期検査、質問票にかかわる情報交換会

3)職員研修

全職員を対象に次の研修を実施した。

① 平成31年4月、令和元年10月

男女共同参画の推進

② 令和元年7月

リスク管理、個人情報管理、乳歯調査、学童期検査
教養講座「コミュニケーション研修」

(株式会社トーネット キャリア開発事業部長 高橋理里子先生)

③ 令和2年1月

リスク管理、個人情報管理、乳歯調査、学童期検査
教養講座「パソコン研修 ～Excelデータベース機能について～」

(エヌケー・テック株式会社 主任インストラクター 橋本雄太先生)

4)他主催研修への参加

コアセンター主催のエコチル調査管理者研修(令和元年8月実施)及びリスクコミュニケーション研修(令和2年2月実施)に積極的に参加した。

(12)学術研究

1)エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議

学術的情報発信を大学一体となって推進するため、平成27年4月6日に「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ」を設置した。

年2回開催している「エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ会議」を、令和元年度は、令和元年10月10日に開催したが、2回目は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止とした。

学内の研究者に対し、エコチル調査の概要・追加調査の現状・データの学術利用等について説明を行い、周知を図った。

2)エコチル調査福島ユニットセンター学術ワーキンググループ勉強会

令和元年11月19日より、毎月1回、執筆予定の全国データを用いた研究課題についての勉強会開催を開始した。3月末までに、計5回開催した。

3)中心仮説解析計画検討ワークショップ

エコチル調査における中心仮説に関する成果発表に関して検討を進めるために、コアセンター(国立環境研究所)主催で「中心仮説解析計画検討ワークショップ」が令和元年9月27日に開催された。当ユニットセンターでは、学術ワーキンググループ構成員のうち6名が、中心仮説に関する研究課題についての討論に参加した。

令和元年3月12日に、2回目を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止となった。

4)研究成果発表

① 論文

令和元年度に掲載された原著論文は4題、総説等は2題であった。

【全国データを用いた原著論文】

- ・ Effect of proinflammatory diet before pregnancy on gestational age and birthweight: The Japan Environment and Children's Study
(向炎症食が妊娠週数、出生体重に与える影響について)
石橋 真輝帆 他, Maternal & Child Nutrition. 2019 Nov 20:e12899.
受理日 2019年9月25日
- ・ Risk factors for placenta accreta spectrum : findings from the Japan environment and Children's Study
(エコチル調査データを用いた癒着胎盤のリスク因子についての検討)
経塚 標 他, BMC Pregnancy Childbirth. 2019 Nov 27;19(1):447.
受理日 2019年11月15日

【追加調査原著論文】

- ・ Earthquake and nuclear power plant accident; an adjunct study in Fukushima Regional Center of the Japan Environmental and Children's Study (JECS)
(東日本大震災と原発事故後の福島市における新生児館の発達障害の研究：エコチル調査福島ユニットセンターの追加調査)
板垣俊太郎 他, Fukushima Journal of Medical Science. 2019;65(1):1-5. doi: 10.5387/fms.2018-19.
受理日 2019年3月12日
- ・ Association Between Neutralizing Antibody Titers against Parechovirus A3 in Maternal and Cord Blood Pairs and Perinatal Factors
(パレコウイルスA3型に対する母体血、臍帯血の中和抗体価と周産期因子との関連)
清水 裕美 他, Journal of the Pediatric Infectious Diseases Society. 2019 May 20. pii:piz029.
受理日 2019年4月22日

【総説等】

- ・ 特集 エコチル調査の進捗と展望
「平成から令和につなぐ福島県におけるエコチル調査」
橋本浩一, 化学物質と環境 第160号 9-10頁 2020年 エコケミストリー研究会
- ・ 特集 日本の周産期事情 update-出生コホート研究からわかったこと
「妊婦の医薬品・サプリメント使用と子どもの発達」
西郡秀和, 産婦人科の実際 第69巻 1月号 19-26頁 2020年 金原出版社
- ・ 特集 日本の周産期事情 update-出生コホート研究からわかったこと
「母体年齢と早産」
経塚標, 産婦人科の実際 第69巻 1月号 41-46頁 2020年 金原出版社

② 学会発表

令和元年度に行った学会発表は、6題であった。

【シンポジウム講演】

- ・ 生殖医学における新規栄養代謝バイオマーカーを基盤とした妊孕性改善の試み
- Preconception care のエビデンスの確立に向けて -, 太田邦明, 第71回日本産婦人科学会学術講演会(平成31年4月13日、名古屋市)
- ・ Survey of pregnant women in Fukushima prefecture, 経塚 標, The 13th World Congress of The International Cleft Lip and Palate Foundation - CLEFT 2019 - (令和元年7月28日、名古屋市)
- ・ 平成から令和につなぐ福島県におけるエコチル調査, 橋本浩一, 第58回富山県小児保健学会(令和元年10月6日、富山市)

- ・ 周産期医学の立場からコホート研究に迫る，西郡秀和，第16回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会(令和元年10月27日、千葉市)

【口演】

- ・ 出生コホート調査参加児童を対象とした対面調査の課題と取組
福島県の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」学童期検査(小学2年生)初年度実施事例を通して，佐藤晶子 他，令和元年度福島県保健衛生学会(令和元年8月30日、福島市)

【示説】

- ・ 養育者の心理的背景と子どもの泣きとの関連－エコチル調査の精神神経発達検査場面での様子から－，尾形優香 他，日本発達心理学会第31回大会(令和2年3月3日、大阪市)※新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、発表は学会ホームページでの掲示となった。